



こっそり覚える野球審判

Vol.1

「こっそり覚える野球審判」の解説

◆まずは自己紹介◇◆◇◇

皆様、毎回お読み頂いている皆様、何時もありがとうございます。
初めてご覧頂く皆様、はじめまして、宜しくお願い致します。

『こっそり覚える野球審判』を発行しております、鷲谷 亘と申します。
よろしくお願い致します。

私は、セ・リーグに18年在職していましたが、視力の減退で引退しました。
現在は野球審判用品輸入販売の会社を運営しております。

WEBサイトは、以下のURLです。

<http://www.go-stop-call.com/>

プロ野球審判としてのつたない経験しかありませんが、そこで学んだ技術や精神面の事をつれづれなるままに綴ったのが「こっそり審判」です。

実践してきた内容を書いておりますので、皆様も思い当たる事も多いのではないのでしょうか。

現在「こっそり審判」はバックナンバーを公開しておりませんので、読者の皆様からバックナンバーを公開して欲しいというご要望が届く場合が多いです。

バックナンバーをお読み頂くためには、発行元の「magmag」でバックナンバーを公開に設定すれば簡単なのですが、意識的にしておりませんでした。

無料のメールマガジンですので、登録すれば自動的にメールボックスに配信されます。

ですが、私の経験から申しますと、無料のメールマガジンを有効に実践として役立てている方は、私が思っているよりも少ないと感じるのが現状です。

登録されている方でも批判的な目で読まれている方も多いです。

明日の審判に役立つ内容を毎回多く発信することも可能なのですが、一番大事な事を少しずつ習得頂いて、一步一步前進するのが、審判の技術上達の最短距離だと確信しておりますので、毎回短い内容となっております。

それでもポイントは外さずに書いていると思いますので、そのへんの内容を意識して拾って欲しいというのが私の狙いです。

1から10まで、懇切丁寧に書くとすれば、大変な時間が必要です。

さっと読める短い内容でも、理解される方は多くの経験を積まれたかただと想像しますが、経験が少なくてもじっくりお読み頂ければ、必ずや明日の審判には役立つものと確信しております。

また、読んだ時は気が付かなくても、経験を積むほどに「こっそり審判」の内容は納得できる内容と感じて頂けるのではないかと考えていますが、私の自己満足かもしれません。

要は、「こっそり審判」の内容を活かすも殺すも、ご購入頂いてる貴方次第ですね。

そんなことは知っているよ、ではなく、知っていることを実践することこそ大事なのですから、その辺を勘違いしないで、素直に読んで実践して欲しいと願っております。

「こっそり審判」を批判する方は、お読み頂く必要はありません。
読むだけ時間の無駄です。

今回の「こっそり覚える野球審判」Vol.1は無料で公開致します。

「こっそり審判」の内容を加筆して解説していきたいと思っています。

まずは創刊号で書きました「アピール」に関する私の所見です。

2. 02 APPEAL「アピール」・・・守備側チームが、攻撃側チームの規則に反した行為を指摘して、審判員に対してアウトを主張し、その承認を求める行為である。

アピールという言葉を使うのは、守備側チームが規則違反の攻撃側チームの選手のアウトを主張する時だけであって、その他の場合はアピールとは言いません。

規則違反の場合ですね。

通常は、よくあるのが、攻撃側が審判員に対して、「どこ見てんだ！セーフじゃないか！！へたくそ」というような、綺麗な言葉？を使いますが、これは単に抗議している事であって、「アピール」にはなっていません。

ただの文句ですね。「アピール」は認められていますが、「抗議・文句」は認められていません。

つまり、審判員が規則の適用を誤っているのでは？というときに限り、「アピール」は認められるという事になります。

巷では、「抗議・文句」は監督と当該の選手は可能だというご意見もありますが、なんら根拠のないご意見と言わざるを得ません。

しかし、「抗議・文句」があった場合は、簡潔に説明して、すぐにお引取り願うのが、審判としての技術となるわけですが、これがなかなか難しいですね。最初から、審判が間違っていると、決め付けているのですから。

貴方なら、どのように監督・選手にお引取り願いますか？

まずは抗議があった場合に、その抗議が傾聴に値するかどうかを、その抗議の内容から判断する必要があります。

アピールだったとすれば、もちろんそのアピールの内容を把握して、対処する必要がありますね。

ところが、アピールではない抗議に対処するためにアタフタとなる審判は以外に多いです。

特にアマチュアの審判の方は、アピールではない抗議に対して、プレイの判断を説明している方が多いように思います。

抗議に対しては、話を聞く必要がないという事をいう方もいるとは思いますが、それはあまりにも理不尽な対応だと思います。

試合を円滑に進めるためにも、抗議の内容は聞いたほうが良いと思います。

まずは抗議の内容を聞いてから、後の対処を決めれば良いのですね。

ところがアピールなのか、抗議なのかの判断が出来ない審判が多いのではないのでしょうか。

アピールというものは、皆さんが考えているほど多くはありませんので、抗議の内容はしっかり

と聞いて欲しい。

9割以上は抗議です。これは間違いが無いですよ。

審判の判定は最終だというのはもちろんですね。最終じゃなければ判定する意味が無いですね。今現在アメリカでは「チャレンジシステム」というものが採用されておりますが、これは正しく審判の判定を蔑ろにする「公認野球規則違反」のシステムであろうと思います。

チームサイド、当該選手からの「抗議」を正当化するためのシステムですね。規則違反だと思うのですが、貴方はどのように感じますか。

このシステムは選手サイドからの要望を採用したのですが、採用されたからには、そのシステムを否定する事は審判は出来ません。

規則の変更も同じです。規則に従って判定する以外方法がありません。

たとえその規則がおかしいと思っているとしても、規則通りのジャッジメントをするのが審判ですね。

日本では採用されるかどうかは私には分かりませんが、少なくとも球場によっては採用できないケースもあるでしょうから、不公平感が残るのではないかと思います。

話が脱線しましたが、このチャレンジシステム1つを考えるのでも、抗議なのかアピールなのかを理解しているかしていないかを判断する材料にはなりますね。

良いシステムだという方は、公認野球規則を読みなおしたほうが良いと思います。

抗議とアピールの違いを理解することは、審判の判定を考える上で必須です。この違いを理解せずに判定など出来ません。

規則の適用とジャッジメントの違いさえ理解しているとすれば、抗議やアピールなど恐れることはありません。

アピールだとすれば、その基準となったプレイの説明をすればよし。

もし、それが抗議だとすれば、内容を確認して、自分としての見解を述べる。

これでお引取り願うわけですが、お引取りしない場合は、退場の宣告という順番となりますね。

退場に値するものには、言葉というものがありますが、主に行動で表現させることが多いです。

アメリカでは言ってはいけない言葉というものがあるようですが、それは多言語の選手が多いためだということを聞いたことがあります。

英語以外の言語を使用する選手の多くは、悪い言葉は自身の得意とする言語で言いますので、アメリカの審判もその悪い言葉は当然勉強しているのですね。

ですから素早い対応が可能となるわけです。

日本の場合は、プロ野球を除けば、それほど英語等で対処する必要がないのですから、日本語で何を言っているのかをしっかりと聞き逃さないようにする必要があります。

まだ続きますが、後は後ほど更新します。